

救急医療



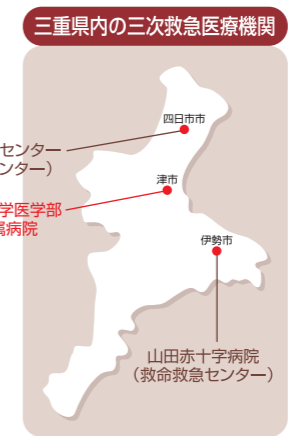
今、全国的に深刻な話題となっている「救急医療」。
 附属病院では、三次救急医療機関として、重症の救急患者さんに
 高度で先進的な救急医療を提供しています。
 救急医療現場は、どのような状況に
 置かれているのでしょうか。
 そして、どのような課題を抱えているのでしょうか。
 今回は、附属病院および地域の救急医療体制の
 現状をご紹介します。

救急医療体制の種別

- **初期救急医療（軽傷）** ● **津市の場合**
 入院や手術の心配がなく、小処置や内服薬処方等で帰宅
 する場合。 ● 夜間成人応急診療所 ● 休日応急
 ● 二次救急医療（中等症～重症） ● 病院群輪番制
 緊急の入院や手術が必要な重症の場合。 ● 国立三重病院
 ● 三次救急医療（重症～重篤） ● **三重大学医学部附属病院**
 生命にかかわるなど緊急度が特に高い場合。
 一般病院からの紹介などで救急車搬送された重症の急性心血
 管系疾患・脳血管障害・多発外傷・重症熱傷・急性中毒など。

附属病院における救急医療体制

- ### 附属病院の役割
1. 広い地域を担当する三次救急医療
 ・ 地域救急医療の「最後の砦」
 2. 地域での救急医療の水準の向上
 ・ 医学生、看護学生、研修医などの教育
 ・ 地域の救急医療機関や救急搬送機関との連携
 ・ 関係諸機関のスタッフへの研修
 3. 災害拠点病院
 ・ 災害時救命救急センターとしての実務
 ・ 関係諸機関との連携体制
 ・ 医療体制の整備や災害訓練への関与



救急部長に聞く

● **三次救急医療機関としての使命を全力で果たす**
 地域の方々の貴重な命を預かっているという使命感を感じています。時と場合によって変化する状況に柔軟に対応しつつ、救急患者さんに最善の処置がなされるように全力を尽くす。これが、救急医療で最も大事なことだと思います。
 今後、三重県や津市、地域の医師会などとの連携をより強化するとともに、ドクターカーやドクターヘリを利用して現場で救急医療を開始したり、災害対応が素早くできる体制を構築するなど、機動性のある救急医療活動を展開していきたいと思っています。



附属病院 救急部長・准教授 武田 多一



附属病院 病院長・教授 内田 淳正

現在の三次救急医療体制をより一層充実して、できるだけ早い段階で救命救急センターの設置を検討しています。平成23年に完成する新しい病院は、救命救急センターとして活動できる設備を備えた設計となっています。



地域の救急医療体制について



津地区医師会長に聞く

津地区医師会 吉田 壽 会長

● **救急医療体制の改善と強化**
 これまで、夜間の初期救急は在宅当番医制度で対応してきましたが、十分に機能せず、二次救急医療機関に集中していました。
 そこで、夜間に成人の初期救急患者を引き受ける拠点として、今年11月1日に「夜間成人応急診療所」を開設しました。初期救急患者をこの診療所で対応することで、重症患者が二次救急医療機関でスムーズに治療されることを狙っています。
 二次救急医療については、11医療機関による輪番制へと強化しました。さらに、整形外科（5医療機関）の輪番制も新たに開始しました。

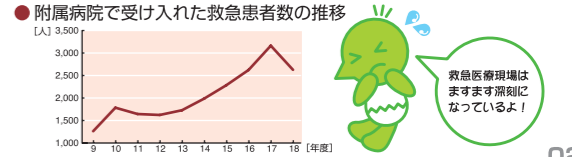


● **三重大学医学部附属病院内に救命救急センターの設置を!**
 さらにこの体制を強化するためには、バックアップする立場である三次救急医療の整備が必要不可欠です。そこで、附属病院内に「救命救急センター」が設置されることを強く願っています。そうすれば、広域だけでなく、地域の救急医療をもカバーすることができます。国や県の予算等、様々なハードルがあると思いますが、ぜひ実現してほしいと思います。

● 附属病院で受け入れた救急患者数（2007年4月～9月）

年齢別	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
	128	73	170	192	136	129	168	297	1,293

時間別	土日祝	平日 8:30~17:00	平日 17:00~22:00	平日 22:00~8:30	計
	356	282	375	280	1,293



附属病院における救急看護

救急看護って、どのようなことが行われているんだろう？
救急部の認定看護師2名にインタビューしました。

救急患者さんが運ばれてきたら、どのように行動するの？

救急部・集中治療部・血液浄化療法部・手術部を兼務する看護師6名が、救急部で救急看護を行います。生命の危険にさらされている場合が多いので、時間が勝負です。早急に次のことを行います。

- ①情報収集：基礎疾患や通院・入院記録などの診療情報を集める。
- ②準備：検査と治療が並行して行われるため、医師と連携し、患者さんの状態を把握し、予測して必要な医療器具などを準備する。
- ③家族のケアと調整：家族に病状や容態等を説明する他、諸問題を調整する(社会的、経済的、言葉など)。



救急部・集中治療部
認定看護師* (救急看護)
寺村 文恵



特に大切なことは？

救急患者さんの多くが運ばれるICU(集中治療室)は、容態の急変にすぐ対応できるように、24時間体制で管理された非日常的な空間です。患者さんの生命の存続が第一ですが、人間の尊厳を重視した「人としての生活のリズム」に合わせた看護も非常に大事。そのため、医療中心の看護ではなく、「その人らしさ」を大切に**した看護**をスタッフ全員で実践しています。



救急部・集中治療部・血液浄化療法部・看護師長
認定看護師* (集中ケア)
水谷 しづよ

*認定看護師とは.....
(社)日本看護学会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいう。水準の高い看護実践を通して、看護師に対する指導・相談活動を行う(認定看護師登録者数:全国3,383名、三重県43名[うち附属病院勤務7名])。.....

急病・けがになったら...

ステップ1 かかりつけ医に相談
↓ 診察が難しい時
ステップ2 休日夜間応急診療所に連絡
↓ 診察が難しい時
ステップ3 「医療ネットみえ」で医療機関を探す

医療ネットみえ
ホームページ <http://www.qq.pref.mie.jp/>
自動案内 TEL.0800-100-1199 (いじ救急)

いざという時に慌てないために

かかりつけ医を持とう!

日頃の診療だけでなく、急病などの緊急時にも、非常に心強い存在です。迅速な処置の他、重症の場合は適切な医療機関を探し、搬送先にそれまでの診療情報を提供するなどします。その診療情報は、緊急時にとても役立ちます。

かかりつけ医と日頃からよい関係を築き、少しでも体調の異変を感じたら、早めに診てもらうことが大事です。

ぜひ活用してね!
健康保険証と一緒に持ち歩いてね!

+ えっくすくん からだカルテ +

- 名前:
- 生年月日:
- 血液型:
- 住所&TEL:
- 緊急連絡先:
- アレルギー・特異体質
- 治療中の病気・服用している薬
- 過去にかかった大きな病気
- かかりつけ医の連絡先

よりよい救急医療が行われるためには、救急医療体制の強化だけでなく、ホウたちの理解と行動が大事なんだね!

救急医療を支えるスタッフ

大募集!



【お問い合わせ先】
(医師・臨床研修医・看護師)
三重大学病院事務部
総務課人事係
TEL.059-231-5046



男女共同参画

平成11年に制定された「男女共同参画社会基本法」は、「性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる」社会の構築を目指した取組です。三重大学では、男女共同参画推進WGを立ち上げ、男女共同参画に積極的に取り組んでいます。



三重大学国際交流センター・副センター長
三重県男女共同参画審議会・会長
花見 槇子 Hanami, Makiko

三重県における男女共同参画の推進について

三重県では、国の「男女共同参画社会基本法」(1999年)を受けて、2000年に「男女共同参画推進条例」を作り、8年間に及ぶ基本計画を立て、県民参加による審議会の厳しい評価のもとで様々な施策が実行されています。県民の理解も一定程度進み、学校教育にも取り入れられるようになってきましたが、政策・方針決定過程や働く場への女性の参画、職場・家庭・地域社会への男女の共同参画など、基本的な課題がまだまだたくさん残されています。

9月28日に開催された「男女共同参画シンポジウム」にて



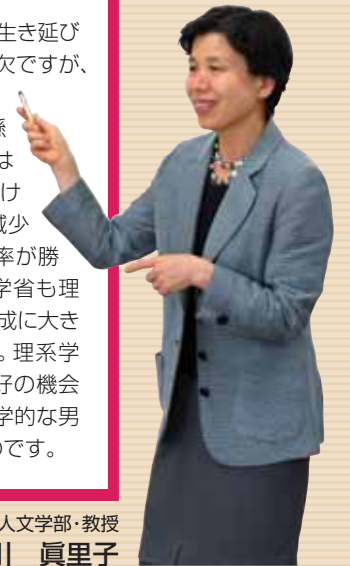
タマサート大学における男女共同参画について

タイでは伝統的に男女の社会的格差が少なく、近代化以後も、大学生の割合は男女半々が普通でした。総合大学であるタマサート大学では、現在、女子学生総数が男子学生総数を上回っているくらいです。それでも工学部では、女子学生数が半数をやや下回っています。しかし、学部長は女性です。理工系の学部にも多くの女子学生がいたり、少ないながらも女性教授がいたり、女性が学部長になることも珍しくありません。家事手伝いを雇うことが比較的容易なので、女性が働きやすい環境にあると言えるでしょう。

タマサート大学東アジア研究所・副所長
カトレア・ペツシン Cattleya, Petchsingh

理系学部女子学生を

問題が山積する21世紀を生き延びるためには科学・技術は不可欠ですが、少子高齢化社会、若者の理科離れなどで研究者の不足が懸念されています。男子学生は実数の減少に連動して減り続けていますが、女子は実数の減少にもかかわらず進学の伸び率が勝って増加傾向です。文部科学省も理系専攻女子学生・研究者の育成に大きな助成金を投入しています。理系学部女子学生を呼び込む絶好の機会を逃さず、教職員、学生の全学的な男女共同参画を実現したいものです。



三重大学人文学部・教授
Ogawa, Mariko 小川 眞里子